

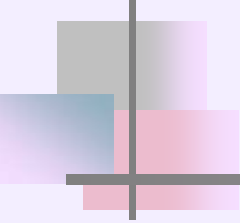


モジュール11.

日常生活を整えるための看護

教育時期:1年目前期

教育方法:講義・ケースカンファレンス・自習



11-1) 食事

■ 目的

終末期患者の食へのニーズと身体的な状態に応じた食事摂取の方法について理解する。

■ 大項目

(1) 経口摂取の減少の原因

(2) 食事摂取への援助



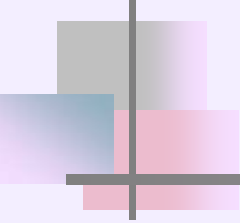
11-1)-(1) 経口摂取の減少の原因

- 病状に関連した原因：口腔や咽頭のあるれ、嚥下困難、胃内容物の停滞、嘔気・嘔吐、便秘、消化管閉塞、痛み、悪液質、生化学的異常（高カルシウム血症など）、臓器不全（腎不全など）、感染症（肺炎など）
- 治療に関連した原因：薬剤、放射線治療、がん化学療法
- その他の原因：不安・抑うつ、食べ物の臭い、歯の不具合、環境の不備



11-1)-(2) 食事摂取への援助

- 終末期患者にとっての食事に対するニーズを理解する
- 身体的な状態に応じた食事の形態を考慮する(嚥下障害、味覚異常、消化管閉塞の場合など)
- 食べやすい体位を調整する
- 環境の整備
- 口腔ケア
- 栄養士、理学療法士、作業療法士などとの協働
- 食べられないことに対する心理面でのケア
- 家族へのケア



11-2) 排泄

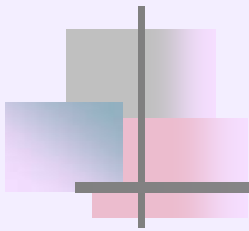
- **目的**

終末期患者の排泄における問題と対応について理解する。

- **大項目**

(1) 終末期がん患者の排泄の問題

(2) 排泄への援助



11-2)-(1)終末期がん患者の排泄の問題

- 排尿障害：排尿回数の異常、排尿困難、尿閉、尿失禁、膀胱不快、残尿感など
- 排便障害：便秘、下痢、便失禁
- ADLの低下
- 痛み、倦怠感、呼吸困難などの症状によって排尿行動がとれないこと



11-2)-(2) 排泄への援助

- 排尿援助：排尿時の労作の軽減・介助方法の検討、尿器の工夫、排尿カテーテルの検討
- 排便援助：便秘と下痢に対する援助、排便時の労作の軽減・介助方法の検討、便器の工夫
- 環境の調整：場所（プライバシーが保てる、羞恥心に対する配慮）、尿器・便器の選択
- 排泄行動の変化に対する心理面でのケア



評価

- 患者の状態に応じた排泄への援助ができる。



11-3) 睡眠

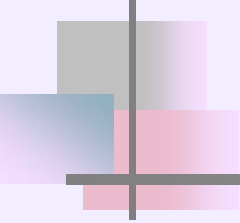
■ 目的

終末期患者の睡眠を妨げる問題と対応について理解する。

■ 大項目

(1) 終末期がん患者の不眠の原因

(2) 睡眠を促すための援助



11-3)-(1)終末期がん患者の不眠の原因

- **身体的な原因: 痛み、呼吸困難、全身倦怠感などの症状による要因**
- **精神的な要因: 不安など**
- **環境的な要因: 慣れない環境、ベッドなど寝具の不具合**
- **薬剤性: ステロイドの使用など**



11-3)-(2) 睡眠を促すための援助

- 身体的な苦痛の軽減：苦痛症状、不快感の軽減や体位の調整など
- 心理的なケア：不安、心配事などへの対応、リラクゼーション、家族の付添などによる安心感
- 寝具の調整
- 室内の環境：気温、湿度、換気、照明など患者に適した環境を整える
- 日中の過ごし方の見直し



評価

- **患者の睡眠を促すための援助ができる。**



11-4) 体位変換・移動

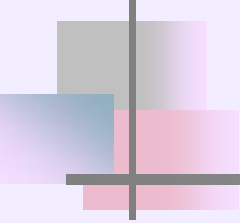
- 目的

終末期患者の体位変換・移動の方法について理解する。

- 大項目

(1) 体位変換の方法

(2) 移動のための援助



11-4)-(1) 体位変換の方法

- 体位変換の妨げになる原因を取り除く：
疼痛などの苦痛症状の軽減
- ベッド、安楽物品（枕・クッション・体圧分散器具）の工夫
- 理学療法士との協働によるポジショニング（患者に適した良肢位の検討）



11-4)-(2) 移動のための援助

- 移動のための補助器具の検討
- 理学療法士との協働（移動による患者の負担を軽減する）



評価

- 安楽な体位変換・移動の介助を行なうことができる。



11-5) 環境調整

- 目的

終末期患者にとっての環境調整を理解する。

- 大項目

- (1) 終末期患者の環境調整



11-5)-(1)終末期患者の環境調整

- 患者が自分らしく過ごせる生活環境を整える
- 自然や外気・季節感を味わう工夫
- 気分転換のできる環境の提供
- 患者にとっての大切な人と過ごせる環境の提供
- 患者にとって安心感や信頼感を提供できるような医療チームの育成



評価

- 患者に心地よい環境を提供できる。